

全国の循環器科または心臓外科を標榜する病院に通院中の患者さま・ご家族さまへ

国立循環器病研究センターでは日本循環器学会が実施する循環器診療の実態調査のデータベースを利用して「心臓再同期療法（CRT）患者の予後に関わる因子に関する研究に関する研究」を行っています。

【対象となる方】日本循環器学会に協力する全国の循環器科または心臓外科を標榜する施設において、2012年4月1日～2021年3月31日の間に、両室ペーシング機能付き植込型除細動器（CRT-D）移植術、両心室ペースメーカー（CRT-P）移植術を受けられた方

【研究課題名】循環器疾患診療実態調査（JROAD）のデータベースとCRT患者の予後に関わる因子に関する研究（研究A）

【研究責任者】国立循環器病研究センター心臓血管内科部門不整脈科 草野研吾

【研究の意義・目的】

日本は急激な社会の高齢化に伴い心不全となる方が激増しています。日本における正確なデータはありませんが、心不全患者数は、2005年において約98万人であり、2030年には130万人に達すると推計されています。心不全が進行すると高率に心臓の電気の流れが障害され、心臓同期不全という心臓壁がバラバラに動く非効率的な状態となります（典型的には心電図で左脚ブロックという所見を認めるようになります）。心臓同期不全は心機能への悪影響を及ぼし、死亡率を増加させます。心臓同期不全に効果を有する治療薬は存在しません。CRT-D、CRT-Pによる心臓再同期療法（CRT）は心臓同期不全を改善させるために開発された心臓植込み型デバイス治療で、心不全悪化を防止あるいは心機能を向上させ、自覚症状や予後の改善をもたらすことから、心不全の標準治療となっています。しかし、30～40%の心不全はCRTに反応せず、様々な原因が想定されオプション機能の追加や工夫がなされていますが、日本においては全国規模の報告はなく十分ではありません。

本研究では、全国規模のデータベースである循環器診療実態調査（JROAD-DPC）のデータベースと各治療施設からの追加情報を用いて、CRT患者の予後に関わる因子におけるエビデンス構築を目的としており、今後の治療に貢献できると考えています。

【利用する診療情報】

患者背景、各種検査所見（心電図、心エコー図、心臓核医学検査、CRTデバイス検査など）、研究期間中に起こった出来事（除細動器の作動、心不全のため入院、お亡くなりになるなど）とその日付

情報の管理責任者

国立循環器病研究センター 理事長 大津欣也

【研究期間】 研究許可日より 2026 年 3 月 31 日まで（予定）

【個人情報の取り扱い】

研究で利用する情報は、特定の個人を直ちに識別することができないよう加工されており、原則として個人を特定できない情報です。研究情報につきましては厳重に管理を行い、学会や学術雑誌等で公表する際にも、個人が特定できないような形で使用いたします。

【問合せ先】

国立循環器病研究センター 草野研吾

住所 564-8565 大阪府吹田市岸部新町 6-1

電話番号 06-6170-1070